

## 市内周遊企画

### フォトスポットの設置ッ!!

作品の舞台となったスポットや観光施設などに、キャラクターと一緒に記念撮影が楽しめるフォトスポットを展開ッ!!

### スタンプラリー（デジタル）を開催ッ!!

函館市内および七飯町の10カ所のスポットを巡るスタンプラリーを開催ッ!!先着でオリジナルのイラストボードをプレゼント。コンプリート達成で豪華賞品が当たる抽選に応募できます!

### ARラリーの実施ッ!!

スタンプラリーと合わせてARラリーも実施ッ!!アプリを使ってキャラクターとの記念写真を楽しもう!!

### 歓迎フラッグ・バナー・イベントポスターを掲出ッ!!

描き下ろしイラストを使用した歓迎フラッグ・バナー・ポスターを市内（一部市外）に掲出ッ!!



## 函館バス・市電コラボ

オリジナルラッピングバス・市電が市内を走行ッ!!  
函館バス・市電共通 1日乗車券も販売ッ!!



市電の運行情報をリアルタイムで確認ッ!!

函館市電  
位置情報システム  
(イカすロケ)



HP

### 【販売場所】

函館市観光案内所、函館バス駅前案内所、  
企業局交通部駒場乗車券販売所 等

※ ラッピングバス・市電は点検・整備等により不定期に運休する場合があります。

※ 函館バスコラボの詳細は、函館バスのホームページをご覧ください。

### 【販売価格】大人 1,600円

※小児券の販売はございません。

## その他、コラボ企画を多数実施予定ッ!!

場面写展やフォトスポットパネルの設置時間は各施設の営業・受付時間に準じます。  
営業・受付時間を過ぎることがないように、時間に余裕をもってお越しください。

ゴールデンカムイ 黄金に染まる函館  
公式HP開設ッ!!

イベントの詳細は  
HPでご確認ください。



HP

ゴールデンカムイ 黄金に染まる函館  
公式X開設ッ!!

イベント情報を  
Xにて随時発信します。



HP

お問合せ:「函館×ゴールデンカムイ」特別イベント実行委員会事務局 ☎21-3383 (土日祝日を除く 8:45~17:30)

# TVアニメ『ゴールデンカムイ』放送記念 特別イベント ゴールデンカムイ 黄金に染まる函館 開催ッ!!

2026年4月28日(火)~7月26日(日)

作品の舞台となった函館 で、コラボイベントを開催ッ!!



キャラクター紹介 (左から) ©野田サトル/集英社・ゴールデンカムイ製作委員会  
鯉登少尉・鶴見中尉・月島軍曹・杉元佐一・白石由竹・アシッパ・尾形百之助・土方歳三

## 特集

TVアニメ  
『ゴールデンカムイ』  
について

## 原

作は「週刊ヤングジャンプ」にて連載された、野田サトルさんによる大ヒット漫画。「マンガ大賞2016」第1位

や「第22回手塚治虫文化賞」マンガ大賞等、数多くの賞に輝き、コミックスは全31巻でシリーズ累計3000万部を突破。さらに

実写版の映画やドラマが大ヒットする等、連載完結後もその勢いはとどまることを知らない。

いよいよ完結となる最終章が2026年1月より絶賛放送中。アニメーション制作のブレインズ・ベース、チーフディレクターのすがはらしずたかを中心としたTVアニメ第四期から継承した体制はそのままに、アイヌの埋蔵金を巡る極上のエンターテイメントが、アニメーションにおいても堂々の完結を迎える!

作品公式HP



HP

場面写展の開催ッ!! 作品中の名場面を切り抜いた場面写展を市内2カ所で開催ッ!!

### 【開催場所】

◆丸井今井函館店 7階特設会場 4/28~5/17  
(10:00~18:30) 5階 5/18~7/26

◆五稜郭タワー 1階アトリウム  
(9:00~18:00)

【入場料】無料 ※五稜郭タワー展望台へ上る場合には、別途料金が発生します。

※2会場で展示の内容は異なります。

さとう なおき  
佐藤 直樹さん 日活株式会社 代表取締役社長 執行役員



高校を卒業して進学するまで函館で育ちました。当時の函館は東映、松竹、東宝、大映、日活、すべての映画会社の劇場がありました。幼稚園のときに初めて観た映画が大映の『大怪獣空中戦 ガメラ対ギャオス』。のちに『平成ガメラシリーズ』のプロデューサーを務めるとは思いも寄りませんでした。大学で映画研究会に入り、映画を生涯の仕事にしたいと思いました。制作会社、大映、角川映画を経て2005年に日活の社長に就任しました。

映画は一本作るのに億単位のお金が動く事業でもあります。作り手は真剣にロケ地を選びます。そのなかで函館が選ばれるのは、先人が築いた異国情緒ある景観や漁師町の風情など「切り取り甲斐」のある街だからです。また、ロケでは住民の方々に、ご不自由をおかけすることもあります。函館の方は温かい。外から来る人に慣れていることもあるのでしょうか、悪い評判を聞くことはありません。

ロケの手配には「あご（食事）・あし（交通）・まくら（宿泊）」が大切ですが、函館の食は魅力に溢れています。映画祭で有名なカンヌやベネチアも、食事が美味しい港町であり観光都市。それぞれ首都であるパリやローマから飛行機で1時間少々であることも函館と共通します。すでにロケ地として多くの作品に選ばれている函館は、国内ロケ誘致に留まらず、次のステージに進めるのではないのでしょうか。海外からのロケや国際映画祭の誘致など、世界に開かれるなかで生まれた函館のまちは、世界とつながることにより輝くはずですよ。

函館で活躍する若い経営者の方々の「函館愛」に感銘を受けたことがあります。函館の未来のために必要なことを一番わかっているのは、いま函館で暮らしている方々です。先人たちの残した資産を活かしつつ、新しいことに挑戦して、函館を活性化して欲しい。そのための触媒になれば嬉しい限りです。それが映画のことだったらなおさらです。

日活の理念は「世界中の人々に面白い作品を届ける」です。先輩たちからのライブラリーを守りながらも、これまでの常識や慣習に囚われず、「その先」に目を向けながら、お客さまの心に響く作品を作り続けていきたいと考えています。



はこだてフィルムコミッションでは、こんなことやってます

はこだてフィルムコミッションでは、映画やドラマ、CMなどの撮影を支援する取組を行っています。ロケ地の紹介や撮影に関する調整、エキストラ募集など、函館での映像制作をサポートしており、令和7年度の撮影等の支援件数は、令和8年2月末現在、コロナ禍以降最多の180件を超え、多くの作品が函館で生まれ、映像を通じて函館の魅力を発信しています。近年では、『劇場版「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」』や『おいしい給食 炎の修学旅行』、『映画ラストマン -FIRST LOVE-』などの制作支援を行っています。

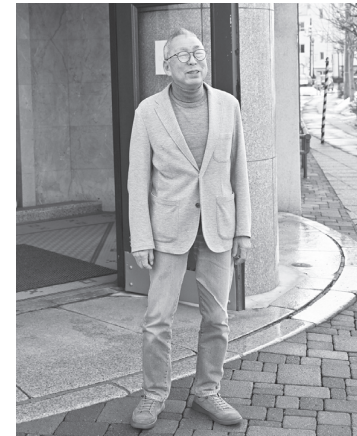
現在、映画やドラマに出演できるエキストラを、年齢、性別問わず募集中です。撮影を通して函館と一緒に盛り上げてみませんか。登録方法など詳しくは、[はこだてフィルムコミッション公式サイト](#)をご覧ください。



HP



よねた てつぺい  
米田 哲平さん



函館港  
イルミネーション映画祭  
実行委員長

カメラを持てば、映画を作れる

小さい頃から父や母とたくさんの映画を観ました。父と観た西部劇や時代劇にはワクワクし、母と観たホームドラマは退屈でした。高校生の時に観た「あばれ騎士道」の渡哲也氏に憧れ、俳優の教則本を日活から取り寄せ練習したものです。1995年に始めた「函館山ロープウェイ映画祭」は、第6回から「函館港イルミネーション映画祭」と名前を変え、昨年30周年を迎えました。映画祭では、「丸ごと撮影所のようなこの函館のまちから、新しい映画を全国に発信しよう」とシナリオの公募を続けて、これまで長編8本、短編8本を映画化しました。

故森田芳光監督はかつて「函館はオープンセットの街だよ。カメラを持てば何時でも映画は作れるよ」と語っていました。和洋折衷建築、路面電車、海や坂があり、独特の歴史に裏付けられた奥行きのある街です。昼と夜で表情が変わり、街がコンパクトなのも撮影にとって利点です。函館に魅かれ、何本も函館で映画を撮ったり、原作にはない函館シーンを追加する監督もいます。

今年は3月に片嶋一貴監督の「捨てられた僕と猫」の撮影があり市のフィルムコミッションと映画祭が協力しました。監督とは「いぬむこいり」上映以来の付き合いになります。先人たちが作った文化的な香りのするこの地で活動できることに感謝しつつ、これからも函館における映画文化を全国に発信していきたいです。

ロケ地として注目される函館の魅力

函館市民映画館「シネマアイリス」は、今年の5月に30周年を迎えます。1983年から映画好きの仲間と映画館や劇場を借りて、函館ではなかなか観ることができない作品を自主上映してきました。90年代になり全国的にミニシアターのブームが起きました。市内の映画館が次々と閉館するなか、自分たちの映画館をつくろうと市民の皆さんに呼びかけ、集まった寄附などをとて1996年に開館しました。

函館で撮影された映画は長編だけでも100本近くあります。私も、函館出身の作家佐藤泰志氏の小説を原作とした映画を5本企画・製作してきました。函館は、かつては無国籍でファンタジックな街として描かれてきました。近年は、葛藤を抱えながら人々が暮らす街としても描かれ、疲弊した地方都市の表情を魅力的に伝えています。ロケ地となった場所を訪れる海外からの観光客も増えています。

また、プロの映画監督によるワークショップを開催し、実際に短編映画を撮影、映画館で上映しています。映画を撮りたい若者への助成金制度などがあると、映画の街・函館のさらなる魅力発信につながるのではないのでしょうか。函館を訪れた映画関係者たちは、街の佇まいに魅了され、「映画を撮りたい気持ちにさせる街」だと言います。道南には函館以外にもまだまだ魅力的な場所がありますので、また新しい作品で発信できればと思っています。

函館は、映画を撮りたくなる街

すがわら かずひろ  
菅原 和博さん



函館市民映画館  
シネマアイリス代表

